

令和元年度第二回練馬区消防団運営委員会議事要録

1 日時

令和元年 12 月 24 日 (火) 15 時 00 分から 16 時 15 分まで

2 会場

練馬区役所本庁舎 7 階防災センター

3 委員長および委員の出欠状況

(1) 出席者

前川委員長、おじま委員、小林健二委員、柴崎委員、柴田委員、小川委員、白石委員、井上委員、福島委員、鳥海委員、小林利生委員、木下委員、伊藤委員、土田委員、吉田委員、杉森委員

(2) 欠席者

青柳委員

4 議事内容 (要旨)

(1) 開会

【練馬区危機管理室長 (司会進行)】

令和元年度第 2 回練馬区消防団運営委員会を開催する。

(2) 委員長挨拶

(委員長の挨拶)

(3) 議事

【事務局 (光が丘消防署警防課長)】

(資料について説明。)

平成 31 年度消防団運営委員会諮問事項についての答申書（案）の中で答申の核心となる消防団員に対するアンケート調査の結果、および結果を含めた今後の方策について説明。

【練馬区危機管理室長（司会進行）】

以上の説明に対し、ご質問、ご意見等は。

【委員】

消防団員の皆様の前向きな意欲が伝わってきて素晴らしいと思った。組織力強化のためにいろいろな補助・支援体制をとっていただくと前向きな方々にとってはどんどん進めていけると思う。

女性の活躍しやすい体制づくりも話にあったようにいろいろと検討していただきたい。

また、学生が入団しやすい仕組みも考えていただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

特別区内の一部の消防団では、学生を機能別団員という扱いにしているところもある。充足率向上のため積極的に入団促進のアプローチを図っていきたい。

【委員】

今回のアンケートでは、選択肢の中から回答を選んでいただいた内容ももちろん大事だが、その他の項目にあるような少数意見も組織力強化に向けて拾う必要があると思う。分団の中でも一人ひとりの意識に大きな差がある。若手団員向けの座談会の開催など、意見を取り入れられるような仕組みを作った方がよいと思った。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

年間通していろいろと訓練を実施している。始式、合同点検等を行っているので、積極的に参加するように促して、意識を上げていきたいと思っております。事務局、消防署としても団員と協力して意識、参加率の向上等の促進を図ってきたいと思っている。

【委員】

練馬区の特徴に焦点をあて、新たな活動のあり方を示すのもよいと思う。また、なかなか参加できない若い世代が、継続して活動できるように別枠の参加の仕方もあるのではないかと思った。

消防団の活動をしっかり広報し、地域と一体化できるようにしていく必要もある。

広域災害対応も今後の大きな課題であると思っている。隣接している他区の自治体との連携など広域的な分野についても示せるとよい。

女性団員の活動環境改善に関しては男性団員のモラル改革といったところも必要になってくると感じた。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

いろいろなイベント等を捉えて、消防団員が地域のために一生懸命活動している姿を見せられる機会を今後も作っていきたい。

大規模災害時の活動では先般の台風の際にも実際に消防団に対応してもらった。活動の幅も広がるものだと思う。

女性団員の活動環境改善についてはまだまだこれからだと思うが、機会をつくって話をしていきたい。

【委員】

消防団員の活動の中で、SNS を活用した取り組みはあるか。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

イーラーニング教育を実施している。スマートフォンでホームページにアクセスすると活動要領などを見ることができる。

【委員】

消防団員の活動でも SNS による団員間の連携、情報収集や情報発信等において活用できるようなアプリが大事だと思うので検討していただきたい。

女性団員の活動環境の改善の中で意見のあった女性団員会議の開催について3団の垣根を越えて、実施していただくことも大事だと思う。その他にも被服のデザイン改良、女性に対する設備の充実など 地域の女性防災リーダーとも言える、女性団員の方々が活躍できるようにご検討いただきたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

女性団員による会議はすごくいいものだと思う。

女性による操法大会もあるので、機会をとらえて会議を開いたり、操法訓練を見ていただいたりすることも、女性団員の方々に積極的活動していただく方策の一つだと思う。

【委員】

先般の台風対応の際にも消防団に対し情報がなかなか入ってこなかった。アンケート結果にもあるように情報収集というのは大きな鍵になると思う。また災害時にアプリを活用し団員や行政、消防署とも共有して試みることができるマップを作成している市もある。

情報収集や情報共有を強化することが重要と強く感じたが、何か考えていることはあるか。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

震災を想定した訓練等を通じ、団員が参集時に被害情報を収集し消防署に情報提供をしていただくという体制は構築している。

また災害情報伝達システムということで、団員の方には災害情報が流れるようになっていて。ただ、新たな施策ということになると、現在お話しできるようなことはない。

団員の中にもスマートフォンなどをあまり使用されないという方もいる中で、これからの部分も多くあると思っている。

【委員】

女性団員の活動環境改善の設問で「その他」意見として「保育園に入りやすくなる等の特典」という回答があるが、特典目的での入団に繋がってしまうのではとの懸念も感じる。子育て世代の不安を取り除くという意味で有効だとは思うが、団員の士気にもかかわることなので一定の条件を付すなど制限も大事であると思う。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

ご指摘のような危険もあると思う。もし今後、施策に反映できるようになるのであれば、誤解のないようにしていきたいと思う。今後の参考にさせていただく。

【委員】

若い方の入団が少ないと感じる。若い方への入団促進も積極的実施していただきたい。

入団5年未満での退団者もいるというアンケート結果がある。仕事などで活動に参加できない団員と参加できる団員で溝ができてしまうこともある。機能別団

員を検討する中で、会社員の方でも夜間に活動できるということにし、会社員の方も取り込みるような形にしてほしい。

SNS の話が出ているが、慣れていない人は操作に時間がかかる。講習なども実施の必要があると思う。

アンケート結果から意識の高い団員が多数いることが改めて分かった。先般の台風での対応の中で、出勤後、実際に台風が来る前に解散となった。意識の高い団員から消防団の参集について疑問の声があがった。出勤の基準と、出勤への考え方を伺いたい。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

集まっていたいたあと、出勤命令が出るのが理想的だが、実際には地域特性などもあり、そうなることが少なくなっているのが、練馬区の状況ではないかと思う。

東京消防庁における「水災時における参集」ということで「水災を警戒し、被害の軽減を図るために、管轄区域全域または地域を限定して、水防体制及び水防非常配備体制を発令する」となっている。団員に対しても、地域を限定してという基準があるので地域特性や災害規模により限定的にやることがある。

【委員】

アンケート回答率 78.5%は必ずしも多いとは言えない。要望をできるいいチャンスである。少なくとも 90%から 95%の回収率にしてもらいたかったがいかか。

【事務局（光が丘消防署警防課長）】

今回の答申内容が一つでも実現された際に、答申案が実現し採用されたものであるなどを団員の方へフィードバックすることにより、アンケートへの積極的な参加につながると思う。事務局としても今後とも、団員の方にフィードバックできるように努力していきたい。

【練馬区危機管理室長（司会進行）】

他に何かあるか。これをもって議事を終了させていただく。

（ 5 ） 代表消防団長挨拶

【光が丘消防団長】

消防団代表挨拶

(6) 事務連絡

【事務局（光が丘消防署）】

事務連絡

(7) 閉会

【練馬区危機管理室長】

以上で本日の消防団運営委員会を終了する。ありがとうございました。